

III-3. 博士後期課程における論文指導・論文提出要件・審査に関する内規

【00.11.21 運営委員会決定、以後数次改正、26.1.19 最新改正】

第1項(論文指導委員会の設立、同委員会の構成、同委員の資格)

- ①国際関係学専攻博士後期課程に入学した学生は、所定の博士後期課程プロジェクト研究指導教員(以下主指導教員と称する)の指導を受ける。
- ②本項①の学生が入学後1学期在学(休学・留学期間は算入せず)したのち(最初の在学期間を4月から開始した者は9月21日から、9月から開始した者は翌年4月1日から提出可能)、主指導教員は当該学生と協議して、論文指導委員会の構成員となる副指導教員候補者1名を選ぶ。主指導教員は同副指導教員候補者名を、研究科運営委員会に提出し(提出期日は研究科事務所が公告した日時とする。休学・留学中においても提出することができる)、論文指導委員会設立の承認を受けることを要する。但し、本規定は論文指導委員会設立が正式に承認される以前における、副指導教員候補者の当該学生に対する指導を妨げるものではない。
- ③論文指導委員会は、主指導教員1名および副指導教員1名の計2名で構成する。
- ④本学の教授、准教授、特任教授、客員教授、客員准教授が副指導教員になることができる。やむを得ず、本研究科における博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員もしくは修士課程プロジェクト研究担当教員ではない者を、副指導教員として依頼する場合には、主指導教員は研究科委員会に、副指導教員候補者の履歴書・研究業績書を所定の書式を用いて提出し、研究科運営委員会の承認を得ることを要する。

第2項(主指導教員、副指導教員の代理者の選定)

- ①指導教員もしくは副指導教員が、やむを得ない事由により、本内規の第4項、第6項、第7項に規定する職務を務めることができない場合には、これに代わる教員を研究科運営委員会が選定する。
- ②研究科運営委員会開催以前にやむを得ず代理者を選定しなければならない場合には、研究科長が選定することができる。この場合、研究科長は次回の研究科運営委員会に、選定結果を報告することを要する。

第3項(主指導教員、副指導教員の変更)

- ①学生が自身の研究テーマ変更により主指導教員の変更を希望する場合は、新たな研究計画書(和文5,000字程度、英文2,500語程度)を作成のうえ、「プロジェクト研究変更願」「論文指導委員会設置報告書」とともに研究科事務所に提出することを要する。書類提出の後、受入希望先の主指導教員およびアカデミックアドバイザー2名(計3名)は学生面談を実施し、変更希望が妥当であるかを確認する。変更が妥当と認められた場合には、研究科運営委員会の承認を経たうえでこれを認める。
研究テーマ変更の他に、やむを得ない事由により、主指導教員または副指導教員の変更を認める場合がある。この場合、研究科運営委員会の承認を得ることを要する。

②主指導教員が退職となる場合は以下の通りとする。

1. 博士学位論文提出時に退職していない場合は、原則として主指導教員は変更しない。
2. 博士学位論文提出前に退職となった場合は、主査(予定者)が主指導教員となる。主査(予定者)は博士後期課程プロジェクト研究担当教員の中から選定する。
3. 博士学位論文提出後も学生が在籍する場合は、主査(予定者)が博士学位論文を除く学生生活上の主指導教員となる。

第4項(論文指導委員会の指導)

論文指導委員会は、本内規に規定する事項の他に、定期的にミーティングを開き、学生に研究の進捗状況を発表・報告させる。

第5項(研究計画書の提出)

論文指導委員会設立後、1学期(休学・留学期間は算入せず)を経過したのち(学期は大学暦に準じて春学期を4月1日から9月20日、秋学期を9月21日から翌年3月31日とする)、学生は同委員会の承認を得て、研究計画書(和文5,000字程度、もしくは英文2,500語程度)を、所定の書式を用いて研究科事務所に提出し(提出期日は研究科事務所が公告した日時とする。休学・留学中においても提出することができる)、研究科運営委員会において承認されることを要する。2024年度以降に入学した学生は、研究計画書を提出する時点において、研究倫理教育コンテンツ「学術・研究公正概論」の単位を取得済みであることを必須とする。2023年度以前に入学した学生は、博士論文の提出時点で「研究倫理概論」または「学術・研究公正概論」の単位を取得済みであることを必須とする。なお、入学後1年(2学期間)在学(休学・留学期間は算入せず)し、「論文指導委員会設置報告書」が未提出の場合「論文指導委員会設置報告書」と「研究計画書」を同時に提出することができる。

第6項(研究中間評価会の申請、評価会成立の要件、開催)

- ①研究科運営委員会において研究計画書の承認を得た学生は、調査研究を進めたのち、論文指導委員会の承認を得て、研究中間評価会開催の申請書を、所定の書式を用いて研究科事務所に提出することを要する。同時に、申請者は研究中間評価要旨(和文の場合2,000字程度、英文の場合700語程度)を、研究科事務所に提出することを要する。申請書および研究中間評価要旨の提出は、研究中間評価会の2週間以前であることを要する。
- ②本項①の申請書には、主指導教員1名、副指導教員1名および論文指導委員会が選定した教員2名以上を明記しなければならない。なお、主指導教員を含めて最低2名は、本研究科における博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員であることを要する(以下、計4名以上を中間評価会参加教員と称する)。
- ③研究科事務所は本項①の申請書を直ちに公告する。また、同時に研究科運営委員に研究中間評価要旨を配付する。
- ④研究中間評価会は公開で行ない、中間評価会参加教員全員の出席をもって成立要件とする。評価会参加者は、評価会を主宰する主指導教員の指示に従わなければならない。
- ⑤研究中間評価会において、研究発表は1時間程度とし、続いて45分程度の質疑応答を実施するものとする。
- ⑥研究中間評価の評価結果は研究指導上活用する。評価結果について合否判定を行い、否の場合は一回に限り再度中間評価会を開催することができる。
- ⑦主指導教員は、研究中間評価会終了後、速やかに研究中間評価会終了報告書を、所定の書式を用いて研究科事務所に提出することを要する。同報告書には、中間評価会参加教員4名の署名もしくは捺印を要する。同報告書が提出された場合は、博士後期課程担当教員委員会において報告されなければならない。

第7項(学術論文1点以上の提出)

- ①研究中間評価に合格した学生は、学界に広くその学術的権威を認められている査読付き学術誌に掲載された自著研究論文(印刷中のものでも可)、またはこれらの学術誌の論文と同等以上の水準にあると認められる自著研究論文で既公刊のものを、1点以上、論文指導委員会に提出しなければならない。どちらの場合も執筆言語は日本語もしくは英語とする。ただし、「アジア太平洋研究科論集」における共著はその1点に該当しないものとする。
- ②論文指導委員会は、提出論文が本項①の要件に合致する論文であるか否かを合同で審査し、合格した場合、主指導教員は、当該学生の学位論文提出時に、学術論文審査報告書を、所定の書式を用いて研究科事務所に提出することを要する。同報告書には、当該論文の別刷(PDF可)、あるいは掲載決定証明書の添付を要する。論文提出時に掲載決定証明書を提出した学生については、論文指導委員会が論文出版について確認を行う。ただし、学生が査読付き学術誌に掲載された自著研究論文以外の論文を提出した場合には、博士後期課程担当教員委員会にて当該論文を確認し、当該論文が査読付き学術誌の論文と同等以上の水準にあることを判断することとする。

③研究指導終了退学者が学位論文を提出する際に、主指導教員が退職している場合は、主査(予定)が学術論文審査報告書を研究科事務所に提出する。また論文提出時に掲載決定証明書を提出した学生については、審査委員会の主査と副査筆頭が論文出版についても確認を行う。

第8項(学位論文の提出、受理)

①本内規の第1項から第7項までの諸要件を満たした学生が、本研究科博士後期課程に2年以上在学(休学・留学期間は算入せず)した場合、学位論文を提出することができる。学生は、次の書類を研究科事務所に提出しなければならない。なお、研究倫理教育コンテンツの単位取得については「第5項(研究計画書の提出)」に記載の通りとする。

1. 学位申請書(1部)
2. 学位論文の電子ファイル(原則として PDF/A 形式)
3. 履歴書 (1 部)
4. 研究業績表 (1 部)
5. 学位論文要旨の電子ファイル(和文の場合 2,000 字程度、英文の場合 700 語程度、原則として PDF/A 形式)
6. 著作に関する誓約 (1 部)

②学位論文は、和文の場合、概ね 20 万字程度以上 60 万字程度以内、英文の場合は概ね 7 万語程度以上 20 万語程度以内であることを要する。ただし、テーマによっては指導教員との協議によって字数制限の変更を認めることがある。論文の書式は、A4 判に縦長で横書き、左右上のマージン 25mm程度、下のマージン 30mm程度とし、下部中央にページ付きであることを原則とする。

③提出期日は年複数回設け、3月修了予定者は9月の提出日まで、9月修了予定者は2月提出日までの研究科事務所が公告した日時とする。

④提出の際に、主指導教員は剽窃など学術倫理上の問題がないか指導を行う。研究指導終了退学者が学位論文を提出する際に、主指導教員が退職している場合は、主査(予定)が剽窃など学術倫理上の問題がないか指導を行う。

⑤博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員全員から成る博士後期課程担当教員委員会は、審査すべき学位論文として受理するか否かを判定し、受理する場合には4名以上の審査員候補者の人選を行ない、研究科運営委員会に提案する。

⑥審査委員会の委員の構成については、以下の A,B を含める必要がある。

- A. 本研究科における博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員 2 名以上。
- B. 本研究科以外に所属する教員、または研究者等 1 名以上。

なお、退職教員(本研究科修士課程・博士後期課程プロジェクト研究を担当していた退職教員)については、審査員として含めることができるが、上記 A,B のどちらにも該当しないこととする。

⑦本研究科における博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員もしくは修士課程プロジェクト研究担当教員(退任者も含む)ではない者を、審査員候補者として人選する場合には、博士後期担当教員委員会は、その審査員候補者の履歴書・研究業績書を検討し、審査員としての資格の有無を判定することを要する。

第9項(審査基準)

当研究科における学位論文の審査は以下の審査基準により実施するものとし、これらの基準を十分に満たす論文に対し、当研究科運営委員会の承認を経て「博士(学術)」の学位授与を認めるものとする。

1. 学術的貢献と独創性
2. 論理的整合性と研究遂行力
3. 表現の精度と国際的コミュニケーション能力
4. 国際的視野・学際性・専門性と社会的意義
5. 研究倫理と資料利用の適正性

第10項(審査手続き、合否判定)

- ①研究科運営委員会が学位論文として受理した場合には、研究科運営委員会において審査員を選定し、審査委員会を設置する。審査委員会は4名以上とし、主査1名と、原則として3名の副査を置く。主査は、原則として主指導教員が務める。ただし、合否判定時に主指導教員が退職している場合は、本研究科における別の博士後期課程プロジェクト研究指導担当教員を主査とする。副査(筆頭)は、原則として副指導教員が務める。ただし、主指導教員・副指導教員であった退職教員は副査(筆頭)となることができる。
- ②審査委員会主査は、審査期間・審査過程を通じて、学術的な視点に基づく博士論文の審査ならびに審査の手続き等が円滑に進むよう調整する役割を担うとともに、審査報告書に関して主たる責任を負うものとする。また、副査(筆頭)となる者は、審査期間・審査過程を通じて、主査に準ずる責任を負うものとし、それ以外の副査は、審査期間・審査過程を通じて公正な論文審査を担うこととする。
- ③口述試験は公開で行う。口述試験は原則として審査員全員の出席を要する。口述試験の日時、場所は、口述試験日の2週間前に研究科事務所を通じて公告することを要する。参加者は、口述試験を主宰する論文審査委員会主査の指示に従わなければならない。
- ④口述試験の終了後、審査員による評決を行い、全審査員の3分の2以上の賛成を得た場合は合格とする。口述試験の結果を踏まえて博士論文の合否を判断する第一義的な責任は、審査を担った審査委員会にあるものとする。
- ⑤口述試験において、審査委員会が論文の修正を指示した場合、学生は審査委員会が指定する期日までに論文を修正のうえ、修正対応表とともに審査委員会に提出する。審査委員会は、論文の修正が適切であるかを確認し、学位論文(最終版)を確定する。
- ⑥審査委員会から本項⑤の修正指示がない場合、第8項①で提出した論文を学位論文(最終版)として取り扱うものとする。
- ⑦審査委員会は、剽窃などの学術倫理上の問題がないことを最終的に確認する。
- ⑧審査委員会の確認を経て、学生は、PDF/A 形式の電子ファイルによる学位論文(最終版)および論文要旨を研究科事務所に提出する。その期日は本項⑨に定める審査委員会の審査報告書提出期日を超えないものとする。
- ⑨審査委員会主査は、本項④の合格論文に関して、審査報告書(和文3,000字程度、もしくは英文1,500語程度。ただし、論文題目のみは、和文・英文を併記すること)を、学位論文が受理された日から1年以内(3月修了者に関しては2月の、9月修了者に関しては7月の研究科運営委員会開催の2週間前まで)に研究科事務所に提出する。学生に論文修正を指示した場合には修正状況の確認結果報告を盛り込む。不合格論文に関しては不合格理由を記した審査報告書を作成し、同様に提出する。審査報告書には審査員全員の署名もしくは捺印を要する。
- ⑩審査報告書を提出した審査委員会主査は、博士後期課程担当教員委員会において審査経過および結果を報

告し、審査結果に関して承認を得ることを要する。研究科事務所は研究科運営委員会開催の1週間前までに、審査報告書を研究科運営委員に配付する。

⑪研究科運営委員会は、審査委員会で合格し、博士後期課程担当教員委員会において承認を得た学位論文の最終合否判定を行う。早稲田大学学位規則18条2の規定により研究科委員の3分の2以上の出席を要する。

⑫本項⑪の判定に当たっては、直ちに合否を問う無記名投票を実施する。出席者の3分の2以上の合格の判定をもって最終合格とし、博士(学術)学位授与手続きを行う。

⑬合格した学位論文は、インターネットの利用により全文を公表する。ただし、やむを得ない事由(「著作権保護」「個人情報保護」「出版刊行」「多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載」「特許の申請」等を指す。)により、学位授与日から1年を超えて学位論文の全文を公表できない場合に限り、研究科運営委員会での承認を経て、当該論文の内容を要約したもので代替することができる。ただし、その場合でも、閲覧希望に対しては全文を公表する。なお、「やむを得ない事由」が無くなった場合、当該学位授与者は速やかに研究科事務所へ報告のうえ、学位論文の全文を公表する手続きを行うこととする。

第11項(在学期間の短縮)

本内規の第1項②、第5項、第8項①の在学期間にに関する規定は、早稲田大学大学院学則第14条第1項に定める、優れた研究業績をあげた者に対する研究科運営委員会の在学期間短縮の承認を妨げるものではない。在学期間短縮承認の申請は、主指導教員が論文指導委員会の議を経て、研究科長に行うものとする。

第12項(研究指導終了退学者の論文提出資格)

博士後期課程に3年以上在学し、かつ在学中に研究中間評価会に合格し退学する者は、研究指導終了退学(ただし、2026年度以降の入学者で他大学との共同プログラム(ダブルディグリープログラム、コチュテル等)に在籍している学生は研究指導終了退学は認められない)となる(第7項「学術論文1点以上の提出」については、研究指導終了退学するための条件には含まない)。研究指導終了退学した学生は大学院学則第14条第7項の規定により、退学した日から起算して3年以内に限り、第8項の規程に従い学位論文を提出することができる。

第13項(内規の改正)

本内規は研究科運営委員会の議決によって改正することができる。

Bylaw Regarding Application and Evaluation of Doctoral Thesis (Dissertation) In Ph.D. Program

Article 1 (Foundation and Structure of Doctoral Thesis Guidance Committee, Member Qualification)

- 1) As a student enrolled in the doctoral program at Waseda University's Graduate School of Asia-Pacific Studies (GSAPS), a student has one supervisor from whom he/she receives guidance. In principle, the supervisor will serve as chief advisor in student's Ph.D. guidance committee.
- 2) After a student has spent one semester, excluding time studying abroad or on leave of absence, in the program, the chief advisor will, having consulted with the student, request another member of the faculty to serve as deputy advisor on the student's guidance committee. A student enrolled in April will be allowed to submit the "Doctoral Thesis Guidance Committee Establishment Report" after September 21st of that year, and a student enrolled in September will be allowed to do so after April 1st of the following year. The chief advisor will inform the GSAPS office of this request on a designated date, and may submit the request even if the student is studying abroad or on leave of absence. After the request is confirmed, the deputy advisor will be officially appointed at the GSAPS Faculty Meeting. The deputy advisor may offer guidance to the student before this appointment is approved.
- 3) The guidance committee consists of one chief advisor and one deputy advisor.
- 4) Only a scholar with the rank of Professor, Associate Professor, Guest Professor, or Guest Associate Professor at Waseda University can be appointed as deputy advisor. If a person other than a GSAPS faculty member who serves as a supervisor in MA or Ph.D. project research at GSAPS is requested to be the deputy advisor, the chief advisor must submit that person's curriculum vitae and list of previous publications and research at the GSAPS Faculty Meeting for approval.

Article 2 (Selection of Alternate Chief Advisor and Deputy Advisor)

- 1) If the chief advisor or the deputy advisor is unable to execute their duties under Articles 4, 6 and 7 of these bylaws, the GSAPS Faculty Meeting will select alternate faculty members.
- 2) In case of Clause (1) above, when alternate faculty members need to be selected before the GSAPS Faculty Meeting, the Dean of GSAPS may select the member(s) and report this to the next GSAPS Faculty Meeting.

Article 3 (Change in Chief Advisor or Deputy Advisor)

- 1) When a student wishes to change his/her chief advisor due to a change in his/her research plan, a new research plan (Japanese: approximately 5,000 characters, English: approximately 2,500 words) must be written and submitted along with the "Application for Change of Project Research", and the "Doctoral Thesis Guidance Committee Establishment Report" to the GSAPS Office. After submitting the documents, the student will have an interview with the new chief advisor under whom they wish to conduct his/her research and with GSAPS's two Academic Advisors, who will then decide whether the change is acceptable. If the change is deemed acceptable, it can be approved at the GSAPS Faculty Meeting.

There might be other unavoidable reasons, besides a change in a student's research plan, in which a change of chief or deputy advisor is accepted. In these cases, the approval of the GSAPS Faculty Meeting is required.

- 2) In the event that the chief advisor retires, one of the following procedures will apply.
 1. If the chief advisor has not retired at the time a student submits his/her doctoral thesis, a change of chief advisor is not required.
 2. If the chief advisor retires before a student's submission of his/her doctoral thesis, a scheduled chief examiner will become the student's chief advisor. A scheduled chief examiner will be selected from among GSAPS faculty members who serves as a supervisor in Ph.D. project research at GSAPS.
 3. If a student remains enrolled after the submission of his/her doctoral thesis, a scheduled chief examiner will become the chief advisor for matters outside of the doctoral thesis.

Article 4 (Guidance Carried Out by the Guidance Committee)

Aside from the prescribed events in these bylaws, the guidance committee should hold periodic meetings at which the student reports the progress of his/her research.

Article 5 (Submission of Research Plan)

One semester after the establishment of the guidance committee, excluding the time spent studying abroad or on leave of absence, the student can submit a research plan (approximately 5,000 characters in Japanese or 2,500 words in English) written in the prescribed format by the designated dates for submission. As defined by the university academic calendar, the spring semester is from April 1st to September 20th, and the fall semester is from September 21st to March 31st of the following year. After receiving approval from his/her guidance committee, a student must submit his/her research plan to the GSAPS office for approval at the GSAPS Faculty Meeting. The student may submit the research plan while studying abroad or on a leave of absence. If the student does not submit the “Doctoral Thesis Guidance Committee Establishment Report” within one year after enrollment, accounting for two semesters and excluding periods of studying abroad or leave of absence, the student may submit the “Doctoral Thesis Guidance Committee Establishment Report” and a research plan at the same time. A Student who begins his/her studies in 2024 or later is required to earn the credits for 「Introduction to Academic and Research Integrity (For Humanities and Social Science)／学術・研究公正概論（人文・社会科学系）」, a research ethics course, before submitting their research plan. A student who entered GSAPS before 2023 must earn the credits for 「Research Ethics/Introduction to Research Ethics／研究倫理概論」 or 「Introduction to Academic and Research Integrity (For Humanities and Social Science)／学術・研究公正概論（人文・社会科学系）」 before submitting his/her doctoral thesis.

Article 6 (Application for Interim Evaluation, Conditions for Establishing the Interim Evaluation)

- 1) After the student receives approval of his/her research plan from the GSAPS Faculty Meeting, he/she will continue with his/her research and submit the form “Request for Approval of Interim Evaluation”, after receiving permission from his/her guidance committee, to hold an interim evaluation. At this time, the student must also submit a document summarizing the contents of the interim presentation, approximately 2,000 characters in Japanese or 700 words in English. The document will be distributed to all GSAPS faculty members. The request for approval to hold an interim evaluation, as well as the document summarizing the contents of the interim presentation should be submitted two weeks prior to the date of the evaluation.
- 2) The “Request for Approval of Interim Evaluation” should clearly state the names of the chief advisor and the deputy advisor, as well as the two or more teaching staff members chosen by the guidance committee. At least two of the members of the interim evaluation, including the chief advisor, must be GSAPS faculty members who each serve as supervisors in Ph.D. project research at GSAPS.
- 3) The GSAPS office will post the “Request for Approval of Interim Evaluation” publicly and distribute the document summarizing the contents of the interim presentation to the GSAPS faculty.
- 4) The interim evaluation must be done publicly. All members of the interim evaluation are required to attend, and all participants must follow the instructions of the chief advisor for the exam.
- 5) Research presentation at the interim evaluation should last approximately one hour, followed by a 45-minute question and discussion session.
- 6) The interim evaluation is considered as the part of the evaluation process to determine whether the student may proceed to write his/her doctoral thesis. If the student fails his/her first interim evaluation, he/she is allowed to hold another interim evaluation. The maximum number of interim evaluations allowed for each student is two.
- 7) Following the evaluation, the chief advisor should obtain the signatures of the interim evaluation members on the form “Report of the Interim Evaluation” and submit it to the GSAPS office. The report then should be presented at the Ph.D. Faculty Committee.

Article 7 (Submission of At Least One Paper to an Academic Journal)

- 1) A student who has passed the interim evaluation must submit to the guidance committee at least one research paper written in English or Japanese (related to his/her doctoral research topic), published in a peer-reviewed journal that is widely recognized as reputable in the academic community, or one research paper that is recognized as being of an equivalent or higher standard to the research papers in such a peer-reviewed journal. An article “in press” is also acceptable. A coauthored article published in the Journal of the Graduate School of Asia-Pacific Studies is not acceptable.

- 2) The guidance committee will examine the research paper submitted by the student and determine whether it satisfies the criteria stated in Clause (1) above. If the research paper is acceptable, the guidance committee will submit to the GSAPS office the “Report of the Examination of Treatise”, together with an offprint (PDF allowed) of the research paper or a certificate of acceptance for publication. This form must be submitted when the student submits his/her doctoral thesis. The guidance committee is responsible for verifying the publication when the student submits the certificate of acceptance for publication along with the doctoral thesis submission. However, if a student submits a research paper other than a research paper published in a peer-reviewed journal to the guidance committee, the Ph.D. Faculty Committee will determine whether the paper is of a quality equal to or higher than papers published in peer-reviewed journals.
- 3) If the chief advisor has retired by the time the student who has passed the interim evaluation and withdrawn from the program submits his/her doctoral thesis, a scheduled chief examiner will submit the “Report of the Examination of Treatise” to the GSAPS office. Additionally, for a student who submitted a certificate of acceptance for publication along with his/her doctoral thesis to the guidance committee, the chief examiner and the head deputy examiner of the examination committee will also verify the publication.

Article 8 (Submission of Doctoral Thesis)

- 1) A student who has fulfilled the above requirements specified in Articles 1 to 7 and who has completed a minimum of two years, excluding the time spent studying abroad or on leave of absence, in the Ph.D. program is qualified to submit his/her doctoral thesis. A student needs to submit following documents to GSAPS Office, and should refer to Article 5 for requirements on mandatory courses of research ethics.
 1. Application form (1 copy)
 2. Doctoral thesis in digital format (as a PDF/A file)
 3. Curriculum vitae (1 copy)
 4. List of previous research and publications (in Japanese or English) (1 copy)
 5. Summary of Doctoral Thesis in digital format
(approximately 2,000 characters in Japanese, 700 words in English) (as a PDF/A file)
 6. Attestation of authorship (1 copy)
- 2) The doctoral thesis should be between approximately 200,000 and 600,000 characters in Japanese, or between 70,000 and 200,000 words in English. However, depending on the theme of the doctoral thesis, exceptions may be made with the approval of the student's chief advisor. The doctoral thesis should be prepared on A4-sized paper, written horizontally, with margins of 25mm on the top, right and left, and 30mm on the bottom, and pages numbered at the bottom center of the page.
- 3) The deadline for submission is set several times a year: The final deadline for student who will complete the Ph.D. program in March will be set in September; and the final deadline for student who will complete the Ph.D. program in September will be set in February. The GSAPS office will announce the exact deadlines for submission.
- 4) At the time of submission of the doctoral thesis, the chief advisor provides instruction to the student to avoid any breach of academic integrity such as plagiarism. If the chief advisor has retired by the time the student who has passed the interim evaluation and withdrawn from the program submits his/her doctoral thesis, a scheduled chief examiner will guide the student to ensure there are no issues related to academic ethics, such as plagiarism.
- 5) The Ph.D. Faculty Committee will examine all documents and determine whether the doctoral thesis is suitable to be examined. If it is suitable, they will select four or more examiners to establish the examination committee and propose them at the GSAPS Faculty Meeting.
- 6) The members of the examination committee must include:
 - A: 2 or more GSAPS faculty members who serves as a supervisor in Ph.D. project research at GSAPS;
and
 - B: 1 or more faculty members or researchers from outside of GSAPS.

A retired faculty member of GSAPS who served as a supervisor in MA or Ph.D. project research at GSAPS, can be assigned as members of the examination committee, but they cannot be counted as fulfilling the roles designated

by A and B.

7) When an examiner external to GSAPS, who is not a GSAPS faculty member who serves as a supervisor in MA or Ph.D. project research at GSAPS, is selected as the member of the examination committee, the Ph.D. Faculty Committee must approve his/her participation, following a review of the researcher's curriculum vitae and list of research and publications.

Article 9 (Evaluation Criteria)

The doctoral thesis submitted by the student will be examined according to the following criteria. A Ph.D. degree will be awarded if the doctoral thesis satisfies these criteria and is approved by the GSAPS Faculty Meeting.

1. Originality and scholarly contribution
2. Logical rigor and research competence
3. Clarity of expression and international communication
4. Global perspective, interdisciplinarity, professional expertise, and social significance
5. Research ethics and responsible use of sources

Article 10 (Procedures Regarding Examination and Determination of Results)

- 1) After accepting the doctoral thesis submitted by the student for examination, the GSAPS Faculty Meeting will establish the examination committee. The examination committee requires 4 or more examiners, consisting of a chief examiner and at least three deputy examiners. The chief advisor will in principle serve as the chief examiner. If the chief advisor has retired by the time of the final approval at the GSAPS Faculty Meeting, another GSAPS faculty member who serves as a supervisor in Ph.D. project research at GSAPS will in principle serve as the chief examiner. The deputy advisor will in principle serve as the head deputy examiner. If, however, the chief advisor or the deputy advisor has retired, he/she can serve on the examination committee as the head deputy examiner.
- 2) The chief examiner will hold primary responsibility for facilitating the appropriate examination of the doctoral thesis in terms of academic merit through managing the examination schedule and examination process. The chief examiner is also responsible for informing the student regarding the examination process. The head deputy examiner will hold equal responsibility for managing the examination schedule and examination process alongside the chief examiner, while other deputy examiners will be responsible for guaranteeing a fair and open examination.
- 3) The oral thesis defense must be done publicly. The oral thesis defense requires the full attendance of the examination committee. The date, time, and location shall be announced by the GSAPS office two weeks prior to the oral thesis defense. The oral thesis defense shall be presided over by the examination committee, and all participants are required to follow the guidance of the chief examiner.
- 4) Following the oral thesis defense, the examination committee will judge the doctoral thesis. A judgment of "pass" requires the approval of at least two-thirds of the examination committee. Based on the results of the oral thesis defense, the primary responsibility for the acceptance or failure of the doctoral thesis lies with the examination committee involved.
- 5) If, as a result of the oral thesis defense, the examination committee determines that revision of the doctoral thesis is necessary, the student is required to submit a revised doctoral thesis and a "Explanation of Revisions" which describes the revisions to the examination committee by the date designated by the examination committee. The examination committee shall determine whether the revisions are acceptable and confirm the revised doctoral thesis as the "Doctoral Thesis (Final Version)."
- 6) If the examination committee does not request revision as in Clause (5) above, the doctoral thesis submitted according to Article 8 Clause (1) will be treated as the "Doctoral Thesis (Final Version)."
- 7) The examination committee will examine the doctoral thesis to ensure that it does not contain any breach of academic integrity such as plagiarism.
- 8) Following the examination committee's examination of academic integrity in Clause (7), the student is required to submit the "Doctoral Thesis (Final Version)" and "Summary of Doctoral Thesis" to the GSAPS office as a digital PDF/A file. The deadline for submission shall not exceed the date designated in the "Examination Report on the Doctoral Thesis" prepared by the examination committee according to Clause (9) of this Article.

- 9) For a doctoral thesis deemed acceptable by the examination committee according to Clause (4) of this Article, the chief examiner shall submit the “Examination Report on the Doctoral Thesis” (approximately 3,000 characters in Japanese, or 1,500 words in English, with the doctoral thesis title in both Japanese and English), to the GSAPS office. The “Examination Report on the Doctoral Thesis” must be submitted to the GSAPS office within a year after the doctoral thesis has been accepted for examination. For a student completing the Ph.D. program in March, the report should be submitted two weeks before the February GSAPS Faculty Meeting, and for those completing the Ph.D. program in September, the report should be submitted two weeks before the July Faculty Meeting. In case the student is instructed to revise the doctoral thesis, the “Examination Report on the Doctoral Thesis” shall include the examination committee’s evaluation of these revisions. For a student who fails the examination, the chief examiner should prepare the “Examination Report on the Doctoral Thesis” which describes the reasons for failure and submit it in the same manner as above. All examiners should sign the “Examination Report on the Doctoral Thesis.”
- 10) The chief examiner will report the examination results at the Ph.D. Faculty Committee, and must obtain the approval of the Ph.D. Faculty Committee. The GSAPS office will distribute the above document to all faculty members one week before the GSAPS Faculty Meeting.
- 11) A doctoral thesis that has been accepted by the examination committee and attained approval by the Ph.D. Faculty Committee is subject to final approval by the GSAPS Faculty Meeting regarding the acceptance or failure of the doctoral thesis. The GSAPS Faculty Meeting in which the final decision is made, requires attendance by more than two-thirds of the members, as stated in Article 18 Clause (2) in the Waseda University Degree Regulations.
- 12) Doctoral thesis approval described in Clause (11) above shall be conducted by an anonymous vote at the GSAPS Faculty Meeting. Procedures for conferral of the Ph.D. degree will commence when approval is given by two-thirds of the GSAPS Faculty Meeting members.
- 13) The entire doctoral thesis shall be made public online. If unavoidable circumstances make it impossible to post the entire doctoral thesis online within a year starting from the day that the Ph.D. degree is awarded, it is possible to post the summary of the doctoral thesis instead, if approval is granted at the GSAPS Faculty Meeting. Unavoidable circumstances include: copyright protection, protection of private information, forthcoming publication, submission to an academic journal that prohibits making the doctoral thesis public, an ongoing patent application, or similar circumstances. However, even in these circumstances the entire doctoral thesis will be made available for viewing upon request. If the circumstances mandating that the doctoral thesis is temporarily withheld from online availability are resolved, the graduate is required to report this to the GSAPS office as soon as possible and to complete the procedures for making the entire doctoral thesis available online.

Article 11 (Shortening the Period of Enrollment)

The typical regulation concerning the required enrollment period, as stated in Article 1 Clause (2), Article 5, and Article 8 Clause (1), shall not prevent the approval in exceptional cases of accelerated completion by the GSAPS Faculty Meeting, for a student who has shown outstanding results, as stated in Article 14 Clause (1) of the Waseda University Graduate School Bylaws. The application for early completion to the Dean can be made by the chief advisor with the approval of the guidance committee.

Article 12 (Regulations for Submission of Doctoral Thesis for Students Who Have Withdrawn from the Program)

To be considered as a student “who has withdrawn after completion of the research guidance period”, a student must have been enrolled in the Ph.D. program for at least three years and must pass the interim evaluation. In accordance with Article 14 Clause (7) of the Waseda University Graduate School Bylaws, “those who have withdrawn after completion of the research guidance period” may submit a doctoral thesis within three years from the date of withdrawal according to Article 8 of this bylaw. Those who have enrolled in joint programs with other institutions (double degree programs, cotutelle, etc.) and were admitted in the academic year of 2026 or later will not be allowed to “withdraw after completion of the research guidance period”.

Article 13 (Revision of Bylaws)

These bylaws may be revised at the discretion of the GSAPS Faculty Meeting.